

縄文談義盛り上がる

遺跡を巡るバスツアー

尖石考古館

茅野市尖石縄文考古館の「縄文遺跡を巡るバスツアー」は30日、市内で行われた。毎回募集開始後、早々に定員となる人気企画で、コロナ禍以降開催できずにいたが、今年度再開し第2弾。市内を中心に17人が参加し、学芸員と守矢昌文



尖石遺跡内に祭られている「とがりいしさま」を見学する参加者

特別館長の案内で国特別史跡（尖石）、国史跡（上之段、駒形）、国宝土偶が出土した遺跡（中ツ原、棚畑）の5カ所を見学。縄文ロマンに思いをはせた。

尖石遺跡は全国に5カ所だけの国特別史跡の一つ。学芸員は「今から130年前から遺跡があることは知られ、宮坂英式先生の発掘調査により日本で初めて縄文集落の姿が明らかにされ、縄文時代集落研究の原点となる成果をもたらした学術的な価値がある」と説明。名前の由来となった石「とがりいしさま」も案内し「住んでいる人たちの精神的なよりどころになったともい

われている」と話した。

国宝土偶「仮面の女神」が出土した中ツ原遺跡は20年ほど前に公園として整備。柱穴から想像して建てられた2種類の高さの8本の柱や、発掘現場の展示をはじめ、縄文時代の家の跡をタイルや石などを並べて地面に表現したという知る人ぞ知る場所も紹介。雪が残る寒い日だったが、参加者はメモを取ったり質問をしたりして縄文談義に盛り上がっていた。

同市宮川の80代の夫婦は「勉強になった。知り合いを案内できます」と話していた。

（武井葉子）